

Q 公立小・中学校の 教員の長時間労働

おおた 太田 忠芳 議員



A 子どもたちと向き合う時間を より増やせるよう努める

問 教員の長時間労働の実態は。授業数が多過ぎるのではないか。

答 中学校教諭の34・2割は、勤務時間外在校時間が80時間を超えている。一日当たりの授業は5時間から6時間であるが、小学校では来年度から3年生以上が週に1時間増える。

問 教員への支援策の効果は。スクール・サポート・スタッフ

フの配置や部活動指導員の配置で、教材研究の時間や子どもと向き合う時間のほか、休日に休める日が増えたなどの報告があった。

問 新学習指導要領による変更は。小学校では令和2年度から、

中学校では3年度から全面实施となる。学習内容の追加や総授業時間数が増える。外国語教育や英語に対応するため、全小学校の外国



語活動及び外国語の全授業にALTを配置して支援している。

問 教員の夏休みは。また、夏休み中の仕事や行事の実態は。

答 市では、8月11日から16日までを学校閉庁としている。ほかの日は出勤日であり、家庭訪問や面談、研修、補習授業や2学期の準備等を行っている。小学校では水泳指導、中学校では部活動もある。

◎その他の質問

- 一 災害対策について
- 二 国民健康保険について

Q 鶴ヶ島版ネウボラとは

もちだ 持田 やすあき 靖明 議員



A 地域に出向き、気軽に相談できる体制を推進する

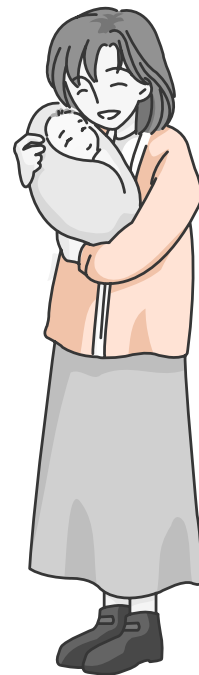
問 ネウボラとは一般的な用語か。御存じない方も多いが、今後の事業の定着とともに、用語としても徐々に浸透するよう努める。

問 鶴ヶ島版ネウボラと本家フィンランドのネウボラとの違いは。

答 フィンランドでは、担当保健師が一貫して、妊娠期から父親を含む家族全体を継続的に支援している。鶴ヶ島版ネウボラは、複数の機関が連携し、各種事業を利用して行う切れ目のない支援を柱とした組織としての支援である。

問 鶴ヶ島市のホームページは、子育て世代にとって利用しやすい構成となっているか。

答 「子育て・教育・健康福祉」



のタブでは、構成上の問題で投稿した順等で項目が並んでおり、課題と捉えている。「すくすく子育て」のパナーからは、子育て情報をまとめたページにリンクするが、探しづらい。より利用しやすいサイトの構築に努める。

問 平成25年度に実施した「子ども・子育て支援に関するアンケート調査」から得たこと、改善したこと、取り組んだことは。

答 鶴ヶ島版ネウボラの開始や児童・家庭総合相談窓口の開設などにつなげた。更に30年度の調査結果を基に、子ども子育て家庭に優しいまちづくりを進めていく。